

第1部

完全競争市場と労働市場

全体像

- 第1部：完全競争市場（第2～4講）
 - 完全競争市場を前提とした労働経済分析
 - ミクロの応用（読み替え）
 - 労働供給量の計測（データ）
- 第2部：摩擦的労働市場（第5～10講）
- 第3部：所得分配と格差（第11～14講）

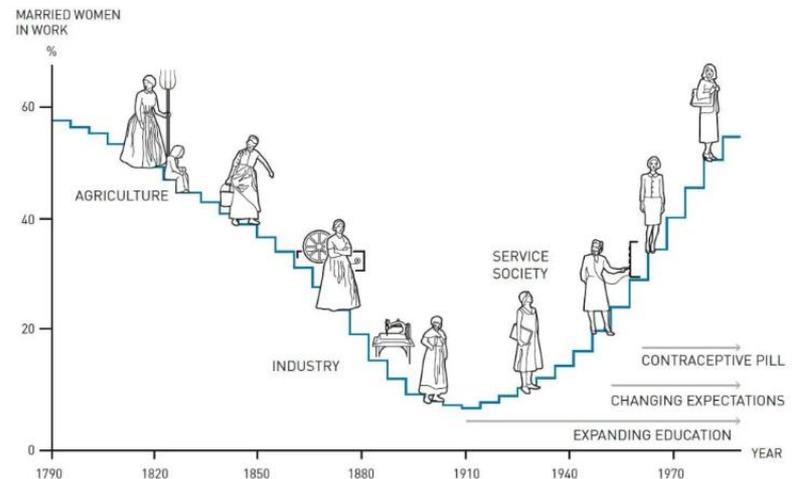
その前に

- Claudia Goldin
- The Sveriges Riksbank Prize in Economic Sciences in Memory of Alfred Nobel 2023.
- Prize motivation: “for having advanced our understanding of **women’s labour market outcomes**”
- <https://www.nobelprize.org/prizes/economic-sciences/2023/summary/>



既婚女性の労働市場参加率

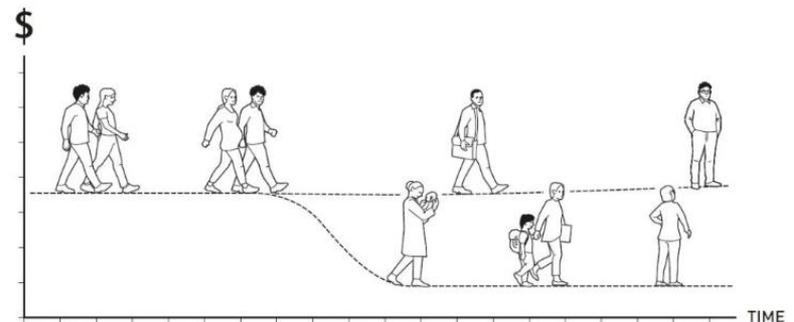
- 経済成長と共に女性の労働市場への参加が進んできたことは良く知られている。
- より古いデータまで含めることで、ゴールディン教授は産業構造の推移と女性労働市場参加率に「U字型」の関係を見。
 - 農業ならば家事育児と両立するが、工場やオフィス勤務とは両立しない。
 - 避妊薬の普及が**長期間に渡る専門教育の機会**を増やす役割を果たしたこと（因果関係）を突き止めた。



<https://www.nobelprize.org/prizes/economic-sciences/2023/popular-information/>

男女の収入格差

- 男女の収入格差の存在は広く知られており、その説明には多くの仮説が存在。
- ゴールデン教授は「育児」に注目。
 - 内職のような細切れ作業の職種の場合、男女差があまりみられず、賃金は生産性ベース。
 - 現代的なオフィスワークで格差が大きい。
 - 子供の病気などに即応できる「on-call parent」となるのは主に母親。
 - 柔軟な働き方をする対価として収入や昇進に格差が生じる。



<https://www.nobelprize.org/prizes/economic-sciences/2023/popular-information/>

第2講

需要と供給

めあて

- 完全競争モデルを用いて労働市場を表現する
 - グラフを使った需要供給分析。
 - 数理モデルを使った分析。
- 学習のポイント：
 - 各グラフや関数の導出
 - 弾力性の計算とグラフとの対応

めあて

- 労働需要曲線の導出
- 労働需要関数の導出：
 - 生産関数： $Y = f(L)$
 - 生産関数： $Y = AL^\alpha$
- 労働供給曲線の導出：
 - 代替効果と所得効果
- 労働供給関数の導出：
 - 効用関数： $U(C, \ell) = C\ell$
 - 効用関数： $U(C, L) = \frac{C^{1-\sigma}}{1-\sigma} - \frac{L^{1+\mu}}{1+\mu}$

参考文献との対応

- 第3章：労働供給
 - 3.12：女性の労働供給
- 第4章：労働需要



「労働経済学」 宮本弘暁、新世社、2018年

参考書との対応

- 川口大司『労働経済学』有斐閣、2017年
- 第2章：労働供給
 - 労働力参加の実証分析
- 第3章：労働需要

